

「ひと」のチカラを育むまち ～輝く人づくり～

6 学校教育の充実

1 10年後に目指したい将来像

学校と社会が、学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、子どもたちが自分の人生を切り拓くために求められる資質・能力を高め、自己実現を図っています。学校の再編により適正規模の学校で、ICT機器等の整備充実など時代の変化に対応した教育環境、生活様式の変化に対応したトイレの洋式化、グローバル化に対応した英語教育、子ども一人一人のニーズに応じた指導・支援等、三田で学んだ子どもたちが誇りに思える教育環境が充実しています。

2 10年後に避けたい三田の状況

3 10年後に目指したい三田の状況

取り組み

A	子どもたちの学習意欲が向上せず、学習場面でのICT機器等の活用も遅れ、急速に進展する社会に対応する学力が十分身につけていません。	➡	自らの学習状況を把握・調整し、他者との協働、ICT機器等の効果的な活用等により、主体的に課題解決を図ることができる子どもたちが育っています。	①
B	基本的なモラルや自己有用感の低下等により、人権侵害や差別、いじめ、問題行動等が起きやすい状態になっています。	➡	自尊感情や他者への思いやり等の精神が涵養され、道徳教育や人権教育、体験活動等を通じて、人やふるさとを愛する心が育っています。	②
C	偏った栄養摂取、朝食欠食など食生活の乱れや肥満・痩身傾向など、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化しています。	➡	子どもたちは食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるとともに、食を通じて地域理解、食文化継承、勤労の大切さなどを理解しています。	③
D	子どもたちが様々な悩みを抱えたり、困難な状況に置かれていたりする状況にあっても、子ども自らSOSが発信できないでいます。	➡	子どもが、自尊感情、自己有用感を高めながら、いじめ等の問題が発生しにくい落ち着いた環境の中で主体的な学びができています。	④
E	学びに対する意欲低下、発達に関する課題、家庭環境等が要因となり、自らの進路を見いだせないでいる不登校児童生徒が増加しています。	➡	子どもたちは、社会的・職業的な自立に向けて、社会の中で自分の役割を果たしながら、夢・希望の実現に向けて主体的に学んでいます。	⑤
F	少子化に伴い、児童生徒がさらに減少し、学校小規模化が進み、教育活動にさまざまな課題が生じています。	➡	学校再編の必要性等の理解がより深まり、望ましい規模の学校が実現し、子どもたちの教育環境が充実しています。	⑥

5 成果指標

新規・継続	取り組み	指標名	単位	指標の目指す方向性	累計・単年度	基準値(基準年)	目標値(R8)	指標の算出方法・算出根拠
新	②	(4)「いじめを受けたり、嫌なことがあったりした時」相談しないと答える子どもの割合	%	↓	単年度	(小)7 (中)11	(小)0 (中)0	「いじめに関する生活アンケート」調査(令和2年度3学期) * 基準値(基準年)R2年3学期(小)は1～6年、(中)は1～3年の平均値
継続	④	(2)「自分には、よいところがあると思う」と答える子どもの割合	%	↑	単年度	(小)86.2 (中)73.2	(小)90 (中)85	全国学力・学習状況調査 * 基準値(基準年)R2年は実施なしのため、R元年数値を入力しています
継続	⑤	(1)「将来の夢や目標を持っている」と答える子どもの割合	%	↑	単年度	(小)84.5 (中)69.7	(小)90 (中)80	全国学力・学習状況調査 * 基準値(基準年)R2年は実施なしのため、R元年数値を入力しています
新	⑥	(4)校舎の洋式便器1基あたりの児童生徒数	人	↓	単年度	女子14.4 男子20.8 (R3)	女子10 男子20	目標値を達成するため、女子:303基➡442基、男子:219基➡230基(小便器除く)に洋式便器を増設する。

◆主要な条例・規則◆

三田市就学援助規則、通学費補助規則

◆関連計画◆

三田市教育大綱、第3期三田市教育振興基本計画、第2期三田市子ども子育て支援事業計画

4 取り組み

市民

◆保護者は、子どもたちが心豊かで健やかに育つよう、生活習慣や学習習慣を整え、愛情をもって子どもたちを育てていきます。
◆市民は、子ども一人一人を大切にする学校、地域との連携を大切にしていく学校について理解を深め、協力して子どもたちを見守り、育てていきます。
◆市民は、三田の教育資源である里山文化、共生の理念について理解を深め、三田の誇りを持って、子どもたちを育てていきます。

事業者・団体等

◆事業者、団体等は、子どもたちの豊かな心と健やかな体の育成に向けて、様々な体験学習の機会や場所の提供に協力します。

行政

①「確かな学力の育成」

全国学力・学習状況調査の結果から、課題に対し具体的な指導方法の改善や、個別に最適化した学びと協働的な学びを進めます。各校の特色を生かし、主体的・対話的で深い学びの実現に向け授業改善を図り、資質・能力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等)をバランスよく育成します。

②「豊かな心の育成」

児童生徒の規範意識を育み、善悪の判断力、生命を尊重する心、やさしさや思いやりの心を育てるよう、家庭・地域と連携した道徳教育や人権教育を進めます。里山での営みから培われてきた生活文化や歴史・伝統等、三田の特色を生かした体験活動を通して、ふるさとを愛する心を育みます。

③「健やかな体の育成」

生涯にわたり心身ともに健康で、活力ある生活を送るために、体力向上の取り組みを進め、自ら進んで運動する習慣の定着を図ります。心身の成長や健康の保持増進を図るため、学校給食を生きた教材とし、地場産物の活用を通し自然豊かな三田の食材を味わい、ふるさとを実感し、生産者への感謝の心を育む食育を推進します。

④「一人一人が大切にされる教育・支援の充実」

特別な配慮を要する児童生徒の状態を正確に把握し、個に応じた指導・支援の充実に努めます。学校園所や関係機関との連携を図り、児童生徒理解に基づく生徒指導を行うとともに、相談・支援体制を充実します。三田が培ってきた共生の理念を礎に、障害の有無にかかわらず「共に学ぶインクルーシブ教育」を推進します。

⑤ 社会的自立に向けた教育の推進

組織的・系統的なキャリア教育の充実に取り組むとともに、社会に貢献しようとする心を育みます。将来、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成に向け、語学力やコミュニケーション能力を育み、また、ふるさと三田に誇りを持ち、異文化理解を進めます。地元高等学校や大学・博物館との連携を生かし、教育内容の充実に取り組みます。

⑥ 学びを支える環境の整備

子どもに安全・安心で質の高い学校生活を保障するため、ICT環境やトイレの洋式化等、学校施設の整備・充実を図るとともに学校再編を含め、時代の変化に対応した教育環境の整備を図ります。若手教員等の指導力、資質を向上する研修を充実します。学校と地域の連携を深め、地域人材を生かした教育の充実に取り組みます。